



## 平成22年度さいたま緑のトラスト運動 指導員養成研修（報告）

日時：8月7日（土）～11月27日（土） 全7回  
会場：トラスト保全地を含む県内各地  
参加：研修生19名（うち修了生16名）

今年の指導員養成研修は、研修日を一日増やし、より充実した研修会を目指しました。

研修生の皆さんのボランティアスタッフとしてのトラスト運動への活躍が期待されます。



ボランティア時代の緑のまちづくり



常緑樹林の観察指導法



自然体験活動の実際



普及パネルの作成

学ぶ、育む、遊ぶという物質循環を連想するようなことばとして確実に体得できました。理論を修得し現場で確かめる。そして、方向性や保全・保持策を発掘する。まさに「論例策」の修得を体験した感覚です。特に、三つの共生（自然・環境・地域）は感銘深く拝聴できました。また、3回にわたる現地踏査研修では三つの共生の重要性や自然に関する広く深い知識の必要性を実感しました。

保全地の維持管理活動については、事故の予防策から始まり、準備、事前指導、応急手当の技術の必要性など臨機応変な内容でした。なかでも、自然体験活動指導六つのポイントは、各種現場共通の必修の観点だと確信しました。即戦力ならぬ明日からの実際（実践）に即応出来る内容に感嘆の連続でした。自然再生の必要性を痛感し、そのポイントや順応的共同管理二重の環を知り、己を磨き成長させることに大きな期待を寄せて本格的な参画に当たりたいと肝に銘じました。

（研修生 杉澤友一）

\* \* \* \* \*

面識がなく、年齢層の広い人の集まりであった私たち受講者も「自然が好きである」という受講者に共通した価値観を通じて次第に仲を深めることができました。受講者の中には、既に環境ボランティア活動をされている方、動植物に詳しい方もいました。私は、ボランティア経験も動植物の知識も豊富ではありませんでしたので、研修を通じて体験した全てのことが貴重な経験でした。研修は、講義と実技から構成されており、講義では、その道の専門家のお話を聞くこともできました。実技では、班に分かれて行動する機会があり、互いに団結して取り組むことができました。さらに研修場所は、埼玉県各地を訪れるため自宅から遠いトラスト保全地を訪れる機会にも恵まれました。以上の経験を今後の活動のための足掛かりとできればと考えています。充実した時間を過ごすことができると思いますので、皆様も是非受講してみてください。（研修生 大鹿真一）



## 会員の集い（報告）

日時：11月27日（土） 9：30～17：00  
場所：埼玉会館  
参加：ボランティアスタッフ・一般会員・  
研修生 91名  
理事長等役員 4名 ほか  
（合計 103名）



認定証書交付式



特別講話



交流会

今年度は、研修日を1日増やし7日間とし、新たに  
・里山の履歴と保全の意義（講師：牧野彰吾理事）  
・緑のトラスト地における調査の意義と方法  
（講師：大堀 聡理事）

の講義を加え、終日「会員の集い」としました。

「特別講話」は、保全生態学の若手の第一人者である東京大学大学院農学生命科学研究科の西廣淳先生をお招きし、「自然再生の理念と実践」と題する講話を聴講しました。生物多様性を保全する理由と現状、自然再生事例などをご自身の研究成果や活動経過を紹介しつつご講話をいただきました。

講義・講話終了後、「交流会」を開催しました。今回は、過去最多のご参加をいただき、理事長ほか役員、ボランティアスタッフ・一般会員そして研修生の方々が、互いに交流を深めることができました。